大篠小の校舎完成

各教室に防音設備

木造校舎一部取り壊し

ジェット機就航にそなえて、静かな教室で子どもたちが勉強できるように――と昨年八月から工事が進められていた大篠小学校（麻岡文雄校長、生徒＝八百六十七人）の校舎の一部がこのほど完成、三月五日、新しくできた校舎三階の視聴覚室で落成式が行われました。

式典には、小笠原市長をはじめPTAのみなさんや先生、生徒ら関係者約五十人が出席、立派にできた校舎の完成を祝いました。

新しくできた校舎は、鉄筋コンクリート造り三階建てで、総事業費約二億二千二百万円をかけ、五十三年度に建築された校舎の東側につぎたされたもので、普通教室三、職員室、保健室、視聴覚室、会議室、相談室、放送室（スタジオ）、資料室など。

各室には、騒音をシャットアウトする防音サッシが取り付けられ、全体がクリーム色の明るい教室に仕上げられています。

大篠小学校は、生徒数の増加や木造校舎の老朽化がひどいことや空港拡張に伴う騒音対策事業とのからみで、ひきつづき五十七年度以降も改築工事が進められることになっていますが、とりあえず五十七年度は、約三億八千万円をかけて普通教室を主体に、昇降口、給食室などが建築される予定です。

なお、このたびの新校舎ができたことによって、玄関や職員室などがある南端の校舎と南から二番目の校舎の東半分がまもなく取り壊され、職員室などは新校舎へ移ることになります。

大正十三年に改築され、数多くの卒業生を送り出した伝統の木造校舎は、約六十年間にわたる役目を終え、近代的な鉄筋コンクリート校舎にバトンタッチすることになりました。

完成した鉄筋3階建て校舎

取り壊される木造校舎

もう一つの卒業式

中卒就職生をはげます会

ことしも、卒業・就職・進学・入学のシーズンがきて、市内四つの中学校からも、高校進学を中心に、三百六十七人が卒業しました。

そのうち、三十三人（うち女子九人）が就職する予定です。

ことしの特徴は、「技術を身につける」意味で職業訓練校や調理学校などへ進む方が十四人もいることで、この傾向はこれからも続きそうです。県外組は一人と減っていることも目立ちます。

各種学校十四人のほか、主なものをみると、繊維関係五人、料飲店三人、自営（家事手伝い）三人、病院二人で、学校別では、香長十一人、北陵九人、香南三人、鳶ヶ池十人となっています。

三月十日の卒業式をまえに、二日、恒例の「就職生をはげます会」が、大勢の先生方が参加して、市役所で行われました。

まず、溝渕喜好香南中校長が、「三百六十七名の卒業生のうち、みなさんは、勇気と決断をもって社会に出られますが、この行動に敬意をはらい賞賛します。そして、みなさんにどうしても幸せになってもらわなければなりません。そのためには①苦しみに打ち勝つ根性を養い②健康に気をつけて…」と激励。田岡収入役と門田教育長は「若い時の苦労は、必ずその後の人生に役立つ。学校へ行くことだけが勉強ではなかろう。最初の仕事が終生の仕事だと思って、若さと情熱で、社会に役立つ人間になってください」とはげましました。

就職生を代表して、光引英夫君（北陵中）が「きびしい社会へ出て行くが、先生やみなさんの教えを守って、りっぱな社会人になります。それぞれの道で、一生懸命頑張っていくことを誓います。」と謝辞をのべました。

複雑で、暗い事の多い社会へ巣立って行く「若人たち」――彼らの幸せを祈らずにはいられません。

田村地区一帯は、弥生時代に、どのような権威者が、どのような生活をし集落をまとめていたか、ますます興味がわいてくる話題です。

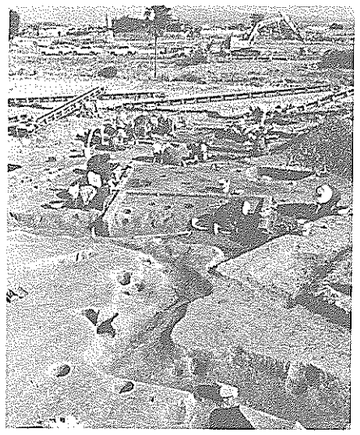
決意新たな中卒就職生たち

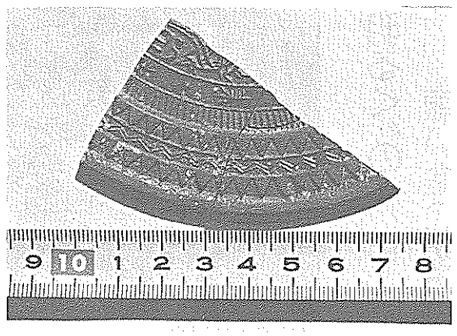
弥生時代の青銅鏡発見

田村遺跡群の発掘調査で

空港拡張工事と並行して進められている「田村遺跡群（横手地区）」の発掘調査で、このほど弥生中期から後期のものと推定される「方格規矩四神鏡」（ほうかくきくししんきょう）が出土し、全国でも極めて少ない発見例として注目されている。

この鏡は、弥生土器片を多量に含む溝状遺構の上層部より出土したもので、全体の六分の一程度の破片（復元径＝一五・三㌢）であるが、二重鋸歯文（きょしもん）や復線波文のほか、二つの文字が認められるなどから、弥生中期～後期に後漢から輸入された舶載鏡（はくさいきょう＝輸入鏡）と推定されている。


田村遺跡群の発掘調査



見つかった青銅鏡片